

第151回

地震予知連絡会資料

2003年5月19日

東北大学大学院理学研究科

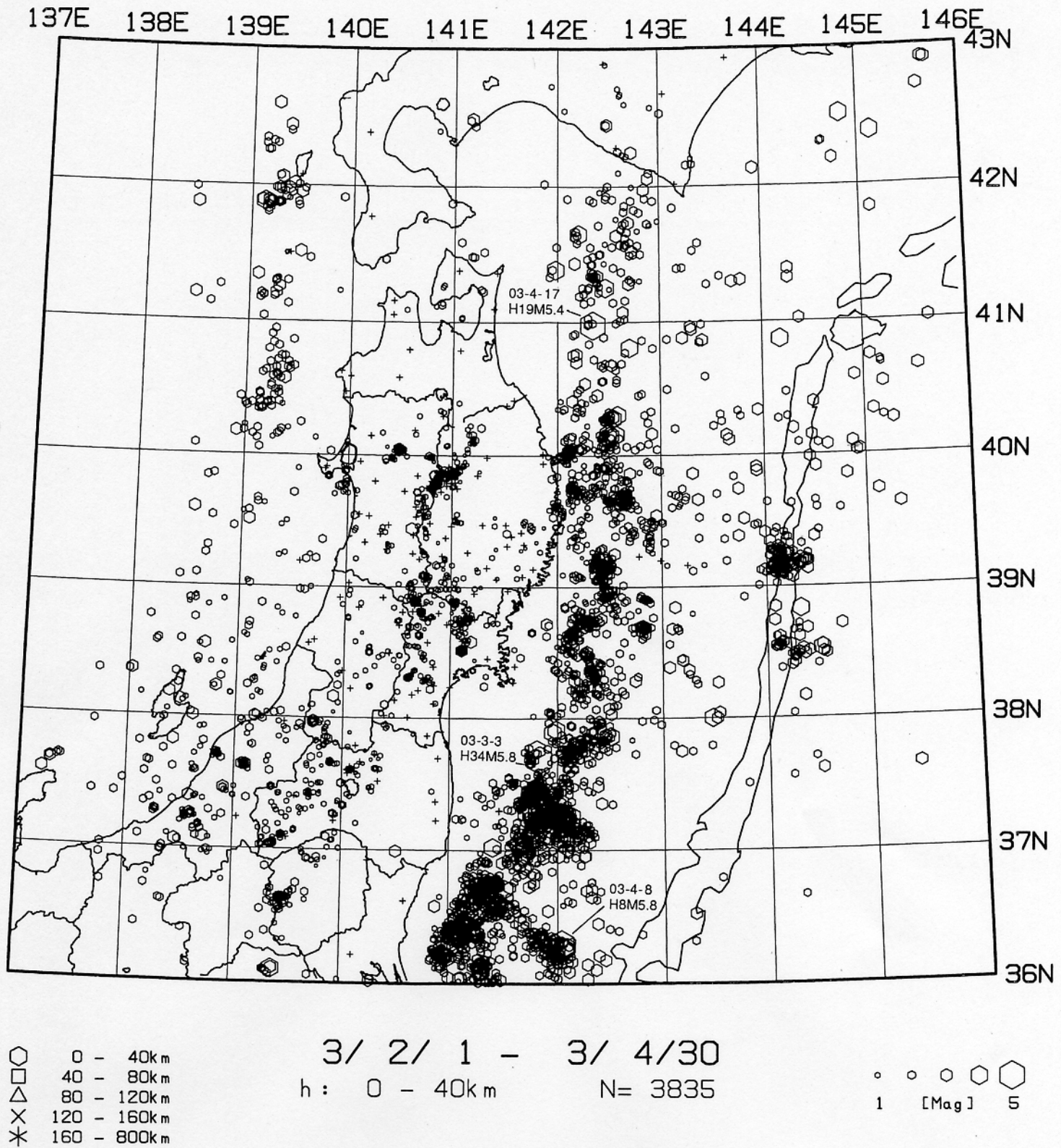


Fig. 1. 東北地方の浅発微小地震の震央分布 (2003年2月~4月) .

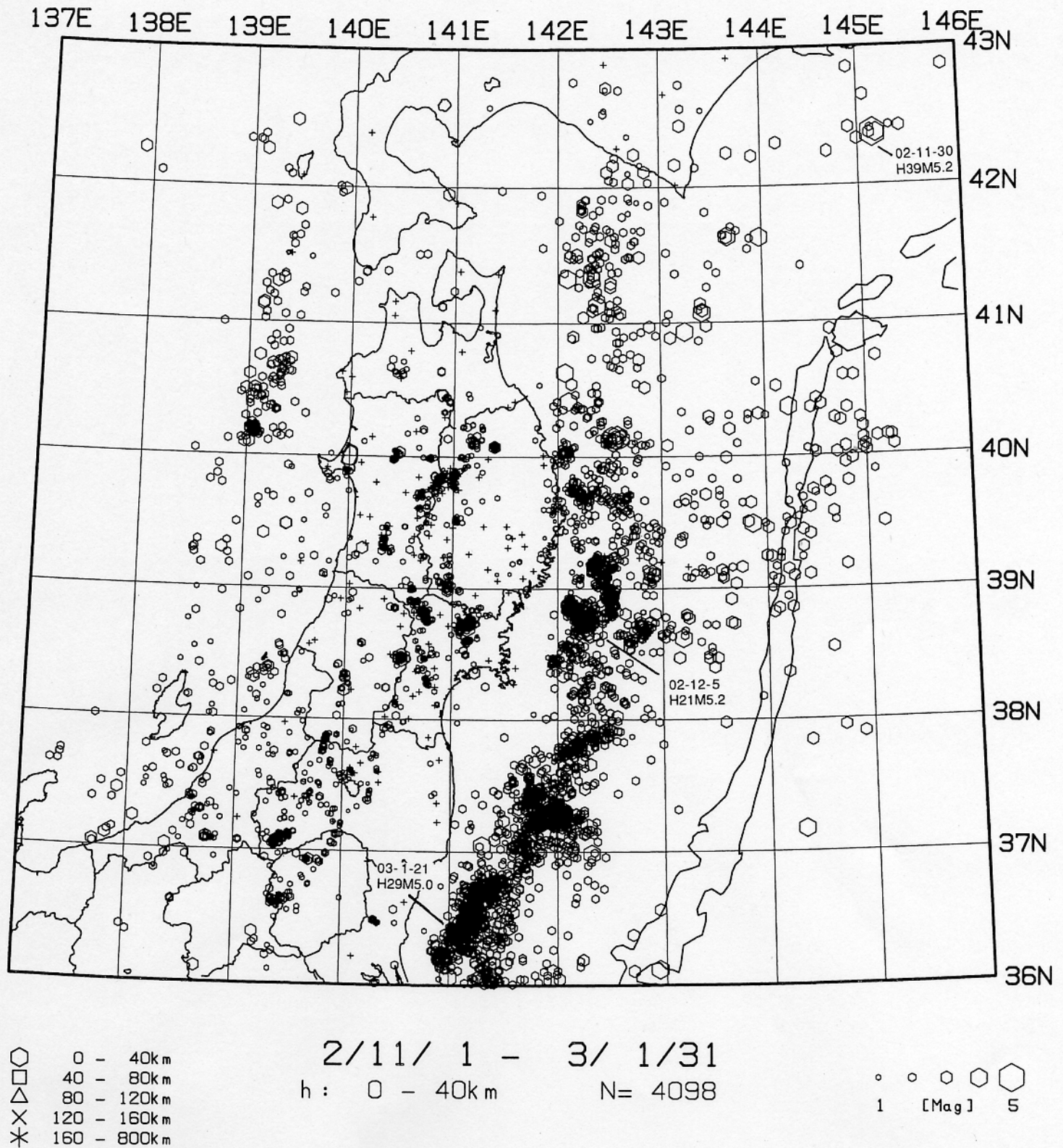


Fig. 2. 東北地方の浅発微小地震の震央分布 (2002年11月~2003年1月) .

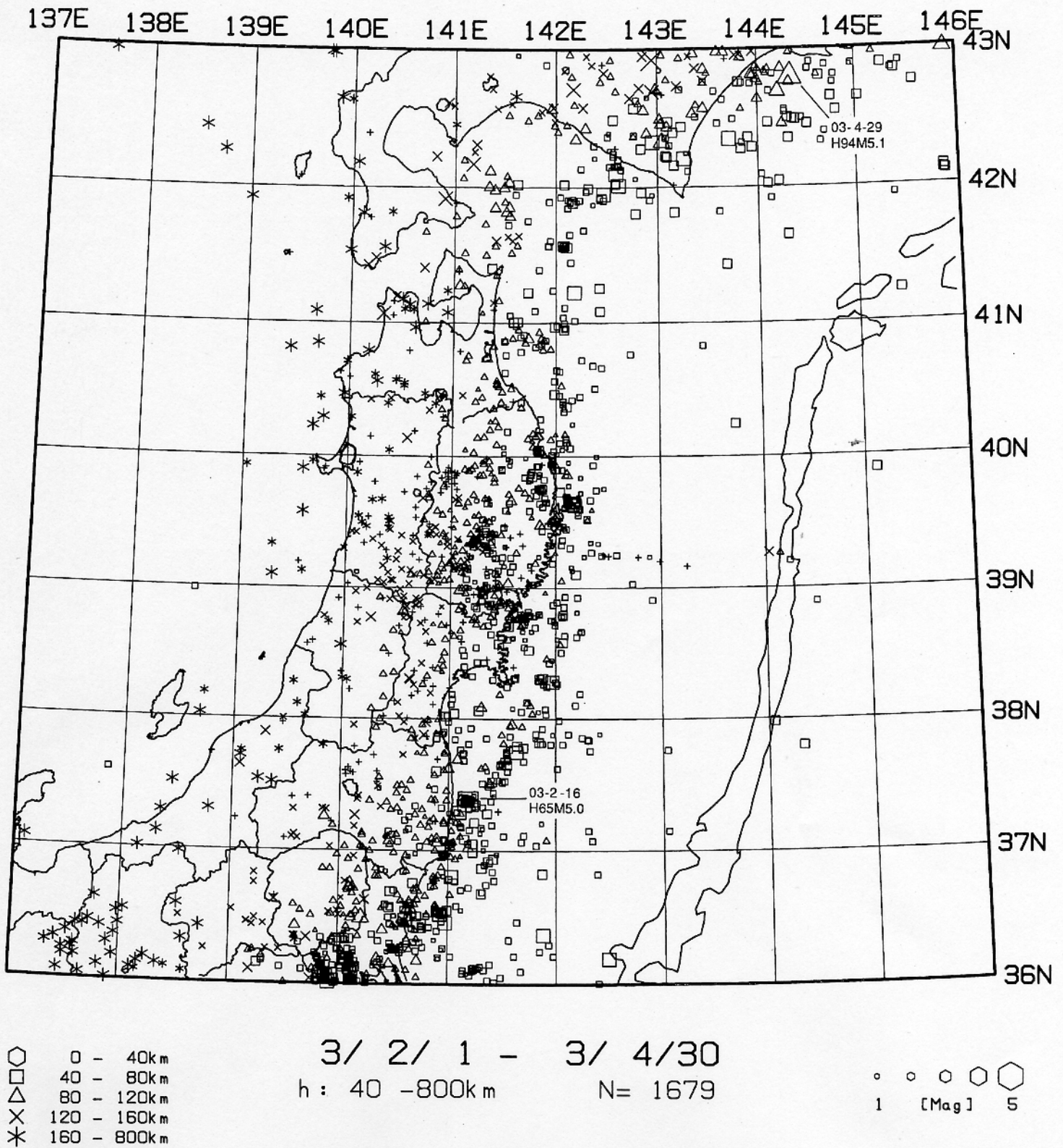


Fig. 3. 東北地方の $h \geq 40$ kmの微小地震の震央分布 (2003年2月~4月).

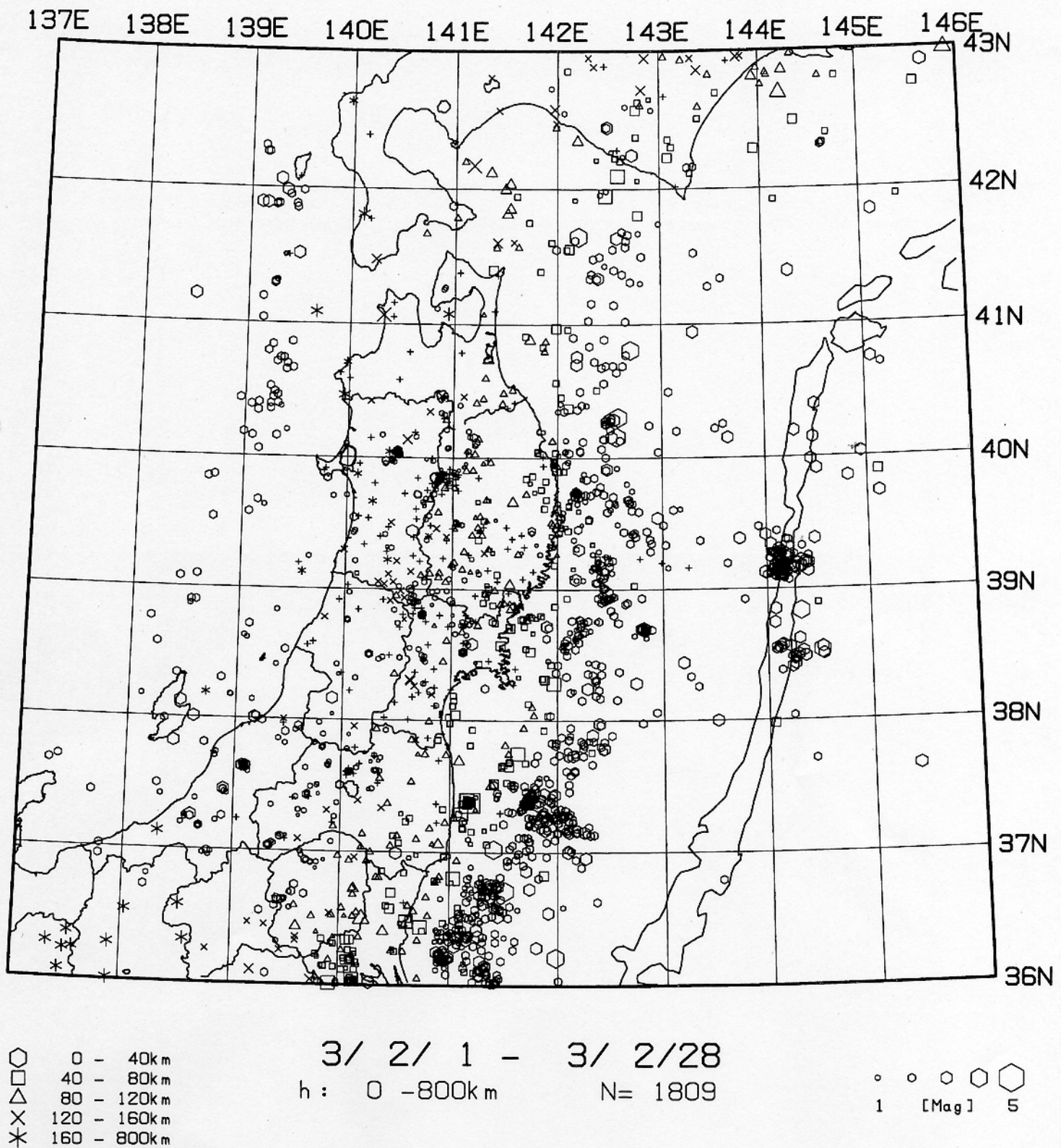


Fig. 4. 東北地方の微小地震の震央分布 (2003年2月) .

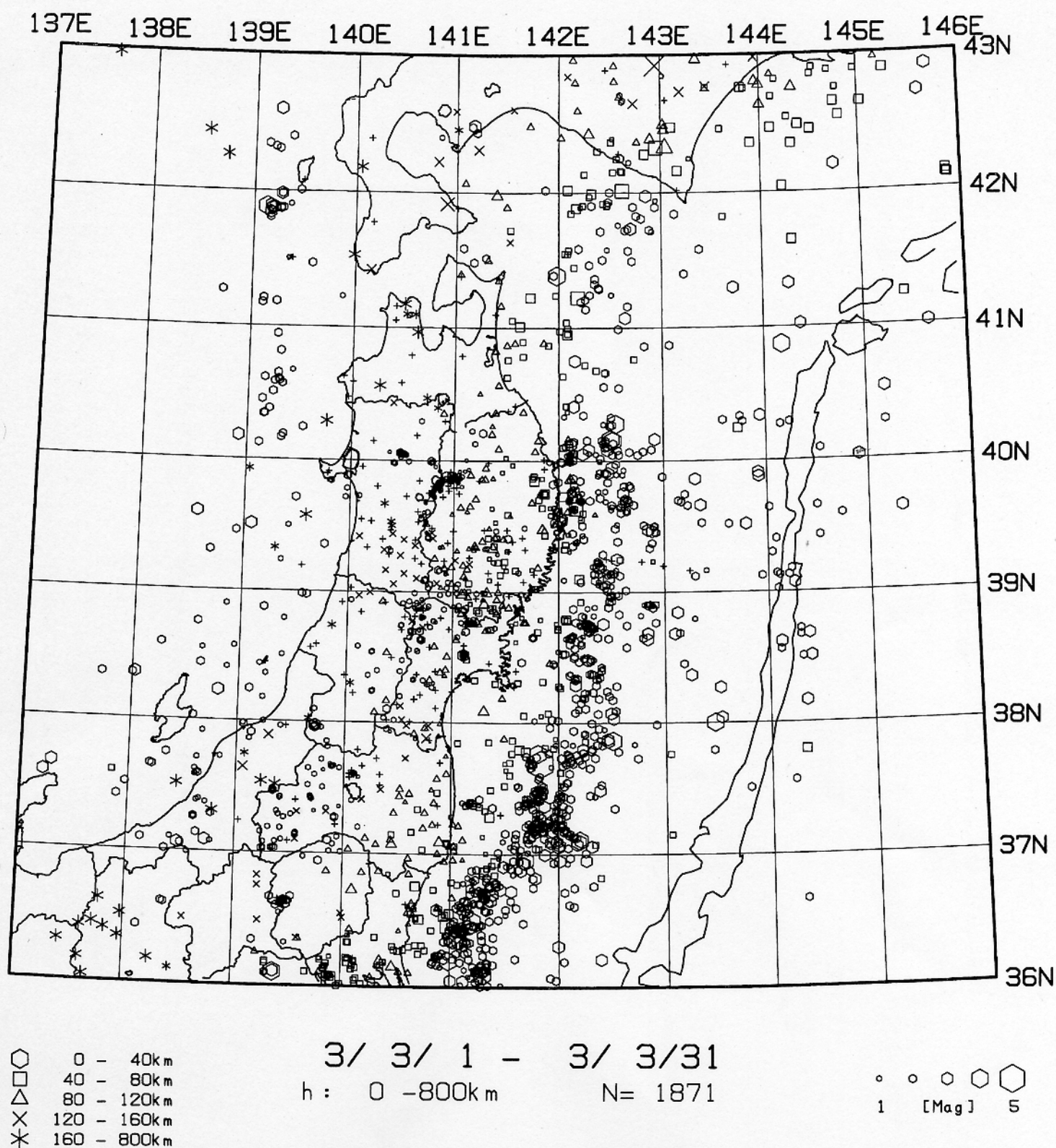


Fig. 5. 東北地方の微小地震の震央分布 (2003年3月) .

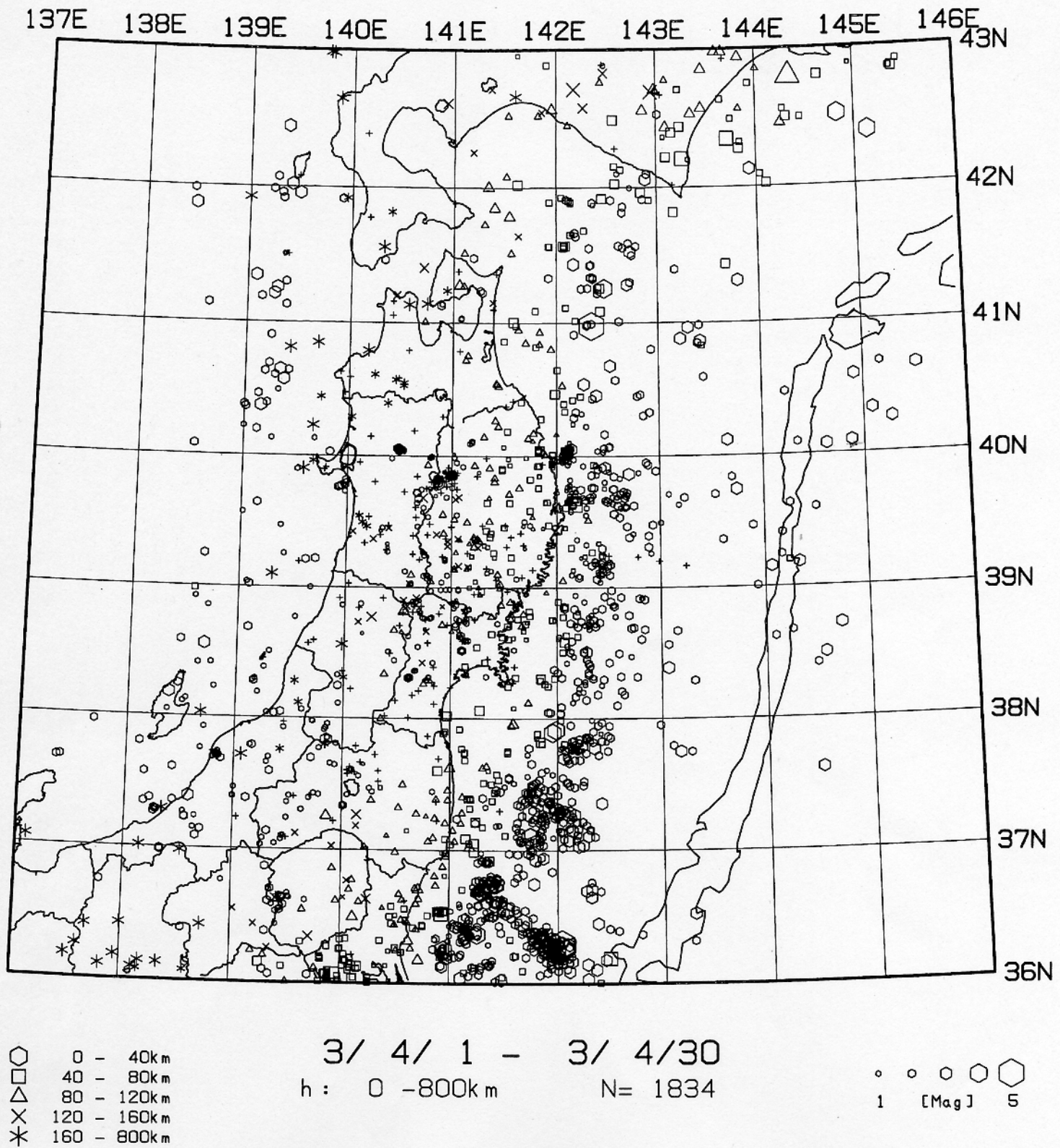


Fig. 6. 東北地方の微小地震の震央分布 (2003年4月) .

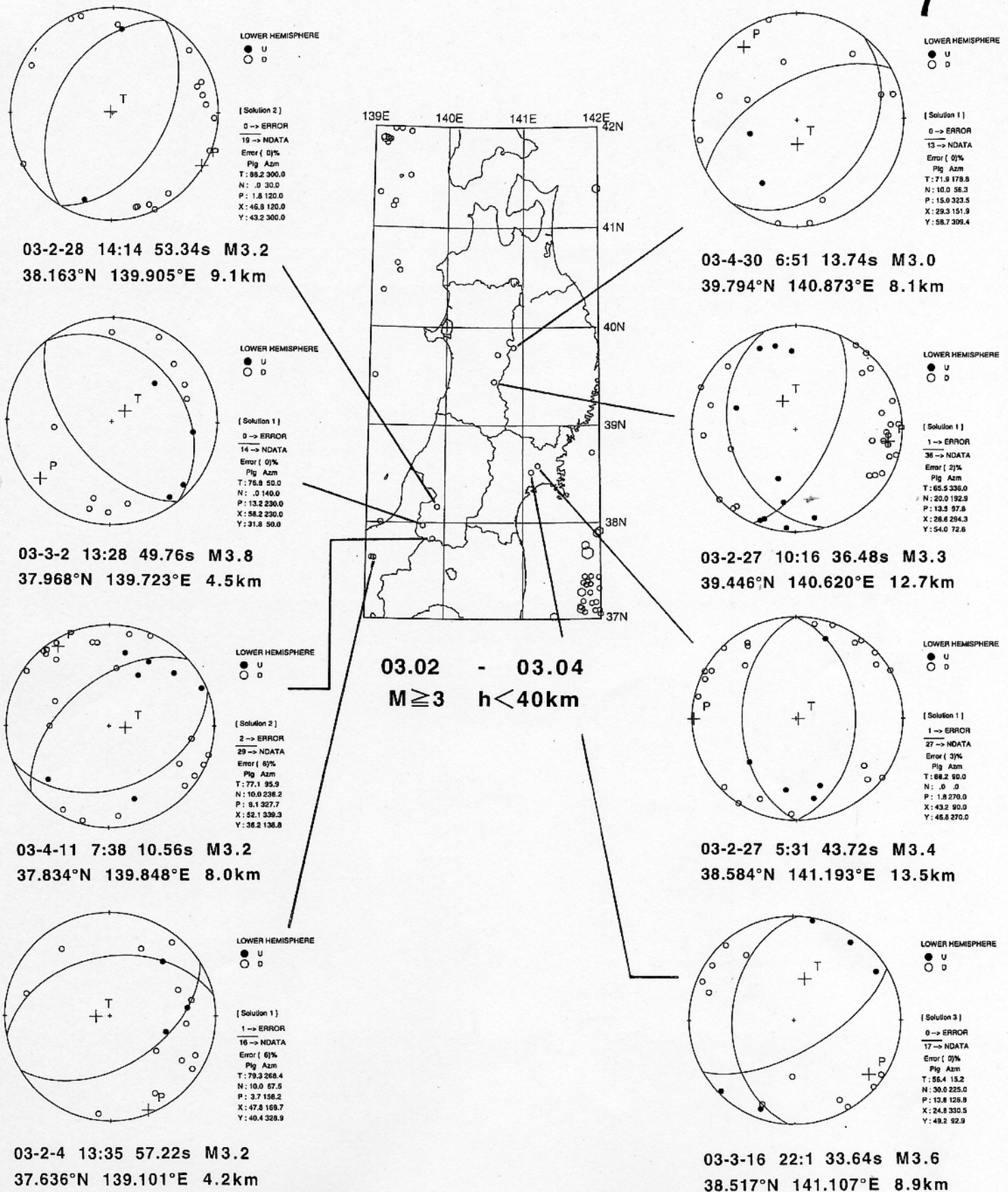


Fig.7. ルーチン処理データによる2003年2月～4月に東北地方の内陸およびその周辺で発生したM $\geq$ 3の浅発地震の震央分布とメカニズム解（下半球等積投影）．●が押し，○が引きを表す．

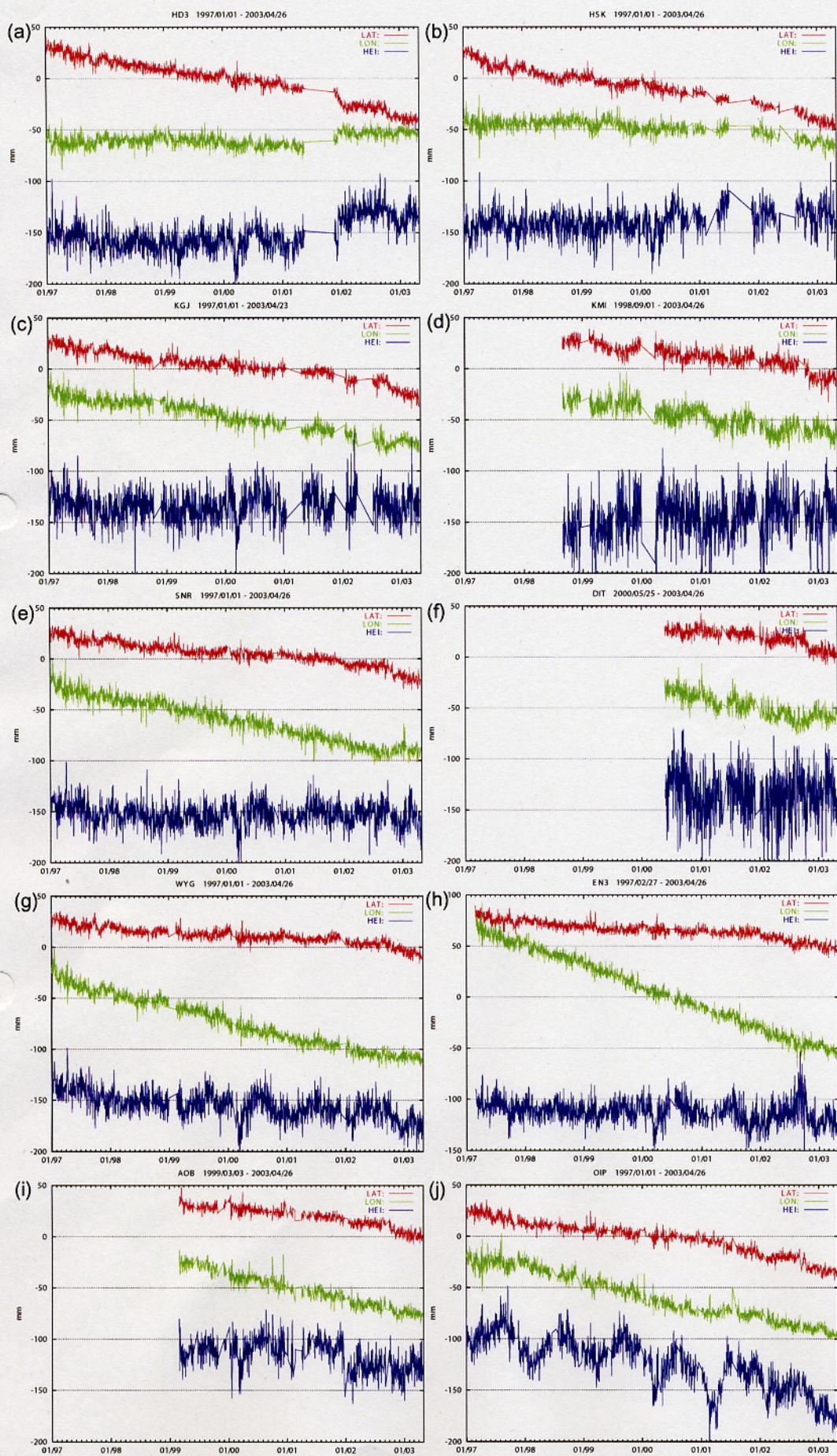


Fig. 8 GIPSY/OASIS-IIの精密単独測位法により得られた東北大学のGPS連続観測点各点のITRF2000座標系における局位置各成分の時間変化. 赤:南北, 緑:東西, 青:楕円体高の各成分を示す. 期間は2003年4月まで. (a)東通, (b)階上, (c)遠野, (d)釜石, (e)三陸, (f)大東, (g)若柳, (h)江島, (i)青葉山(仙台), (j) OIP.

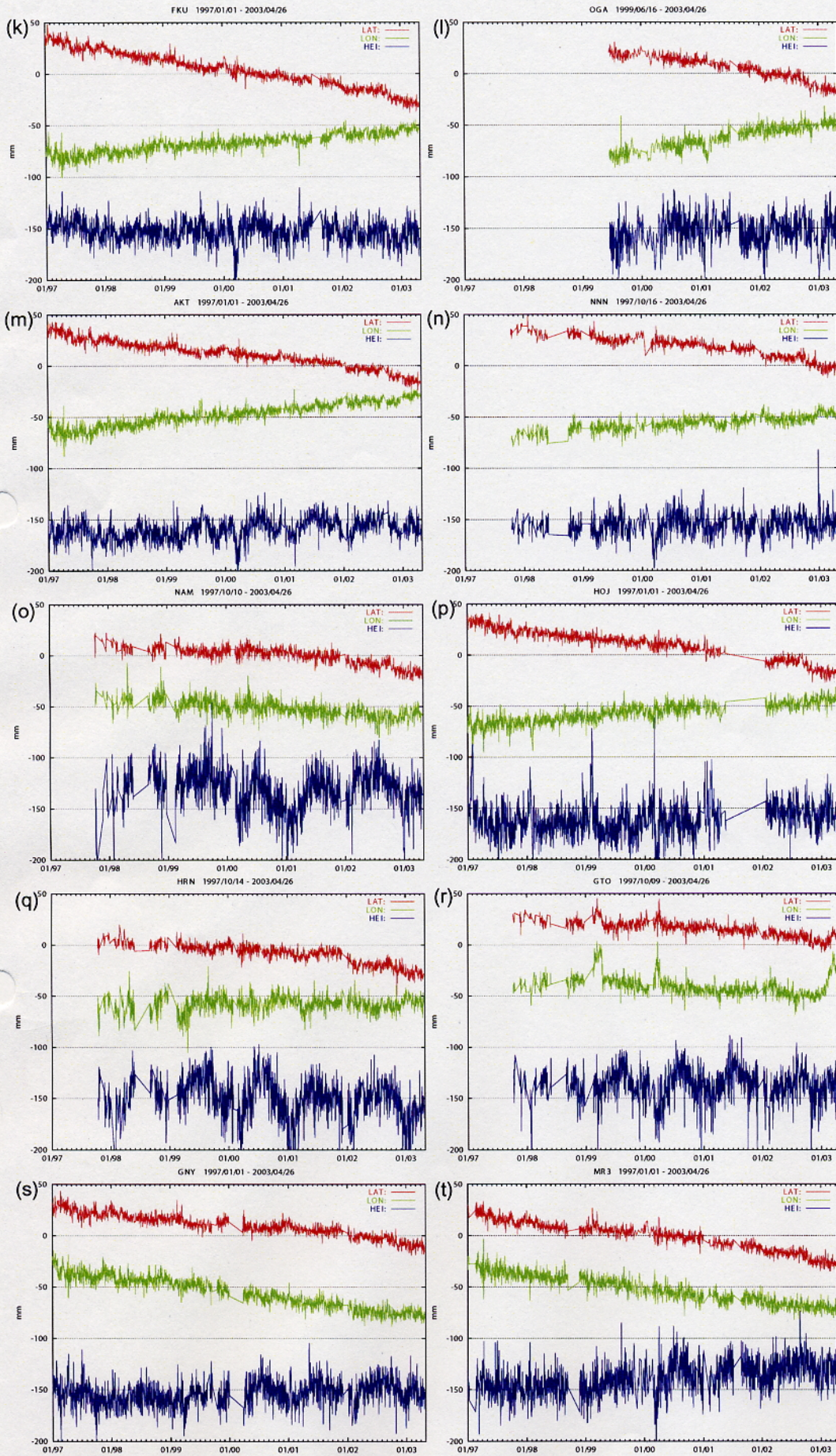


Fig. 8 (つづき) (k)深浦, (l)男鹿, (m)秋田, (n)南外, (o)鉛温泉, (p)本荘, (q)平野沢, (r)夏油, (s)岩入, (t)村山.